



投資環境

2025年1月20日

米金融機関決算は好調な内容、今後はハイテク企業決算に注目

□ 大手金融機関は、軒並み増益

1月15日、16日に米大手金融機関の2024年12月期決算が発表されました。大手6行の決算は、軒並み前年比で増益となりました。企業の株式や社債の発行による資金調達を支援する投資銀行業務や資産運用業務が好調でした。決算を受けて、各社の株価は上昇しています(図表1~6)。とくに、ゴールドマン・サックスやモルガン・スタンレー、シティグループ、ウェルズ・ファアゴの株価が大きく上昇しています。

図表1. ゴールドマン・サックスの株価



図表2. JPMorganの株価



図表3. モルガン・スタンレーの株価



図表4. シティグループの株価



図表5. バンク・オブ・アメリカの株価



図表6. ウェルズ・ファアゴの株価



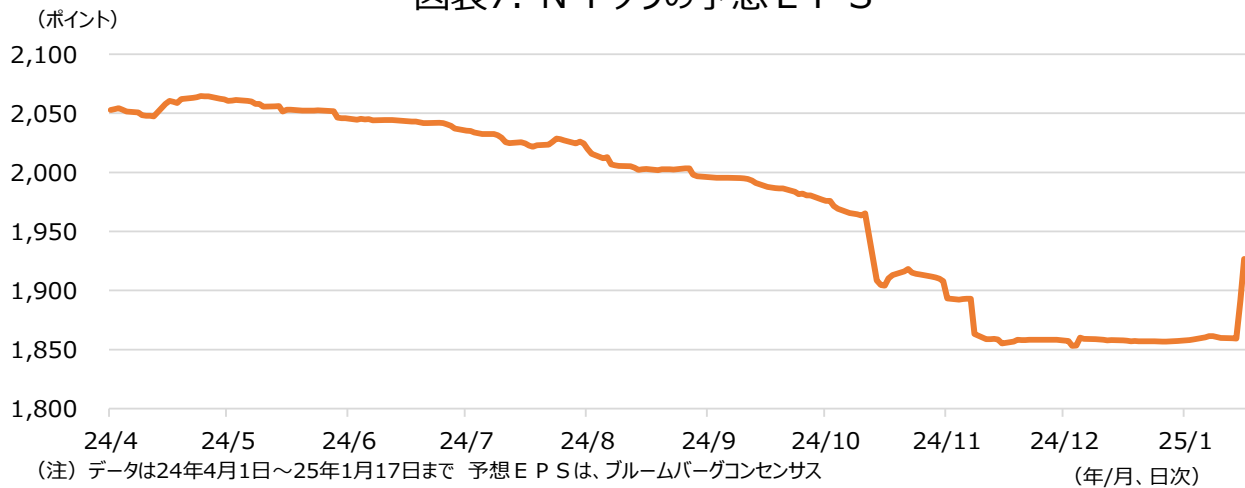


しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号  
 Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会  
 〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

▣ 利益予想は改善

大手金融機関の好決算を受けて、NY ダウ指数の予想一株当たり利益 (EPS) は、改善しています (図表7)。同指数の構成割合トップであるゴールドマン・サックスの好決算などがEPSの改善に寄与しているとみられます。今後は、月末にかけて発表される予定のアップルなどの主要ハイテク企業の決算が注目されます。主要ハイテク企業の決算が市場予想を上回る内容になると、一段とEPSが改善し、米国株を押し上げることが期待できます。

図表7. NYダウの予想EPS

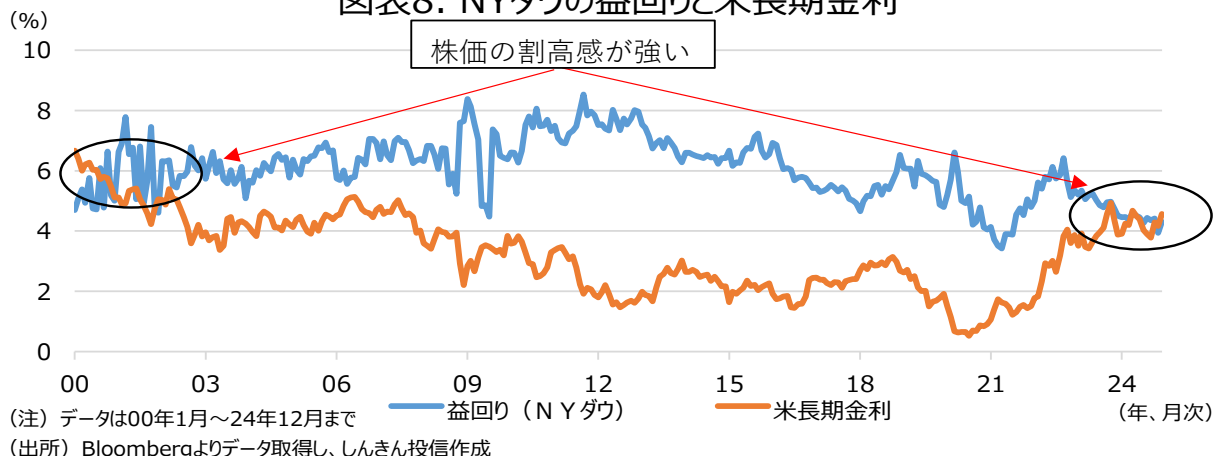


▣ 米長期金利上昇が落ち着いたことは好材料

年初の米国株式市場は米長期金利が上昇したことが嫌気され、やや軟調な動きとなりましたが、足元では金利上昇は落ち着いてきています。今後も、米金利が落ち着いた動きとなれば、株式市場にはポジティブに働くことが予想されます。

ただ、割高感が強いことは懸念材料です。NY ダウ指数の株価の割安感を示す株式益回り (利益を株価で割って算出) は、4%台前半で推移しており、米長期金利と比較して、やや低い状況になっています (図表8)。これは2000年台前半のITバブル期以来の状況で、株式市場の割高感が強まっていることを示唆しています。そのため、今後再び米長期金利が上昇すると、相対的な割高感が意識され、米国株は売りが強まる恐れがあるため、引き続き米長期金利の動向には注意が必要です。

図表8. NYダウの益回りと米長期金利



(ストラテジスト 澤村一樹)



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号  
 Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会  
 〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

＜本資料に関してご留意していただきたい事項＞

- ※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- ※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。
- ※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。
- ※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- ※投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- ※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

【お申込みに際しての留意事項】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■投資信託に係る費用について

(お客様に直接ご負担いただく費用)

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 **上限 3.3%(税抜 3.0%)**
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 **上限 0.3%**

(保有期間中に間接的にご負担いただく費用)

- ◆ 運用管理費用(信託報酬)・・・純資産総額に対して、**上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)**
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用(手数料等)の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。